

令和2年度入学者選抜学力検査問題 後期日程

総合問題（文系後期一括入試）正解・解答例

I

過労死を招く長時間労働を防ぐためには残業時間を減らし、有給休暇を適切に取る必要があるが、会社等においては次のような具体策を講じることができよう。まず、残業の原因の1位が「仕事を分担できるメンバーが少ない」、2位が「残業をしなければ業務が処理しきれないほど業務量が多い」、年次有給休暇を取得できない理由の1位が「人手不足のため、年次有給休暇を取ると業務に支障が生じる」である。これから業務量に比べ人が足りない人手不足が長時間労働の最大の原因であることがわかる。これを解決するには、業務量を減らすか人手を増やすか、あるいはその両方が必要であろう。すなわち、合理的マネジメントのもと業務量を減らし、情報やノウハウの共有を図って業務を分担する体制を作り、ITやAI等の技術を利用して生産性を上げ、さらに量も質も適切な人員配置を行うべきである。次に、残業の原因の3位が「職場のワーク・ライフ・バランスに対する意識が低い」で、有給休暇を取得できない理由の2位「年次有給休暇を取りづらい雰囲気がある」と5位「周囲のメンバーも休暇を取っていない」を併せると、日本の職場には残業せず帰宅することや有給休暇を取ることを否定的に見る文化がある。したがって長時間労働を改善するには、定時退社や有給休暇の取得を管理職が率先し、有給休暇の計画取得を導入するなどこの文化を変えていく必要がある。さらに、残業の原因の4位「職場に長時間労働が評価される風潮がある」が示すように、仕事の成果より時間の方に評価の重点を置く会社もある。そういう会社では、評価の重点を成果の方に変換する必要もある。加えて、残業の原因の5位「残業代を稼ぎたいと思っている」には生活のため残業せざるをえない給与の問題が垣間見られる。基本給を上げるなどできるだけ残業しないで生活できる給与体系を工夫すべきである。いずれにせよ、会社全体での取り組みが必要である。

(798 字)

II

深刻な問題としてまず挙げるべきは、教育達成が不十分な状態が続くことである。日常会話は比較的早い時期に習得することができるが、授業内容の理解に必要な学習思考言語は、本人の努力と周囲の長期の適切な支援があっても5～7年以上かかるといわれており、その間は授業を十分に理解することができない。次に、日本語モノリンガリズムは、日本語を母語としない子どもたちから母語を奪うおそれがある。その結果、家庭内でのコミュニケーション不全に加え、学習思考言語の習得も困難になる。母語喪失という代償にもかかわらず、適切な支援がない状況では、日本語の学習思考言語の習得も十分に達成されない。最後に、アイデンティティ形成の不全である。母語はアイデンティティの形成において重要な役割を担う。母語に引け目を感じさせる環境では、日本語を母語としない子どもたちが、肯定的で安定的なアイデンティティを形成することを妨げることが想定される。

(400 字)

Ⅲ

問 1

M i y a m o t oさんは、母親は日本人であるが、父親は黒人のアメリカ人であるがゆえに、ハーフとして完全な日本人ではないかのような差別的な扱いを受けてきた。ミス・ユニバースに選ばれた時も、彼女を選ぶことは適切ではないとの多くの批判がツイッター上で巻き起こった。M i y a m o t oさんはまた、彼女と同様にハーフである親友の自殺という辛い経験をしている。彼はハーフとして日本のなかで排除されることによる生きづらさに悩んでいた。このようなハーフの人々に対する差別が生じるのは、混血の人々はその社会の中で多数派である人種の人々とは異なり、多数派より劣った少数派の人々の血が混ざっているとの偏見によると考えられる。それは、日本でのみならず、長いこと、世界中の多くの文化で見られるものでもある。混血の人々に対する差別的な呼称は、日本に独特というわけではなく、イギリスやオーストラリア等でも見られるものである。（395 字）

Ⅲ

問 2

著者は異文化接触の長い歴史の中で、人種的に純粋である集団などほとんど存在しないことを指摘している。そう考えるならば、日本人も果たして純粋な集団と言えるのだろうか。日本は単一民族からなる均質的な社会とされてきたが、太古から現在まで周辺地域などと多様な人的・文化的交流をなしてきたという歴史がある。日本人はそうした交流の中で形成されてきたのであり、純粋な日本人という考え方は妥当とは言えないと思われる。（199 字）